

令和6年度 学校経営計画

東京都立向丘高等学校長 三藤 政義

スクールミッション

デジタル機器を効果的に活用した学習活動により、深い学びと教養を身に付け、リーダーシップ教育で培った主体性を軸に、自己を高め自信に繋げ、他者を理解し課題解決に向けて協働し、明るい未来を展望して自らの世界を切り拓く生徒を育成します。

目指す学校像

- 1 深い学びと教養を身に付けさせる「進学指導」を実践する学校（進学指導研究校）
- 2 ICTを活用した教育活動を効果的に展開できる学校
- 3 リーダーシップ教育を軸として、生徒の主体性の涵養を図る学校
- 4 生徒が安心・安全に学校生活がおくれる環境を整え、学習活動や特別活動等に邁進できる学校
- 5 生徒に社会性を身に付けさせ、生徒の人間性を高める教育を様々な場面で提供できる学校

目指す生徒像

- 1 自己を高め、自信につなげる力を持つ生徒
- 2 他者を理解し、課題解決に向けて協働できる力を持つ生徒
- 3 明るい未来を展望し、自らの世界を切り拓くことができる力を持つ生徒

スクール・ポリシー

1 アドミッション・ポリシー＝入学を希望する中学生への期待

- (1) 志を持って入学する人
- (2) 高校生として適切な行動が、当たり前に見える人
- (3) 教科書をしっかり読み、授業を大切に人
- (4) 学習や進路希望について高い目標を持ち、目標に向かって、努力を継続できる人
- (5) 自分の無限の可能性に気づき、挑戦できる人
- (6) 行事、部活動、生徒会、クラス活動に積極的に参加し、そこでの活動を楽しむ人

2 カリキュラム・ポリシー＝特徴的な教育活動

- (1) 10分間の朝学習
- (2) Web学習システムを学習支援や宿題配信などに活用します
- (3) 英語四技能対策として、全員受験の実用英語検定と東京英語村（TGG）での学習（1学年）を行います
- (4) 体育祭や向陵祭、ホームルーム活動、部活動などを通して、生徒の主体性を育てます
- (5) 「総合的な探究の時間」や「人間と社会」の授業などで、将来に向けたキャリア意識を育てます
- (6) 「大学模擬授業」、「多彩な講習」、「キャリアガイダンス」などで学習支援、進路意識の育成を進めます
- (7) 豊富な自習スペースがあります 学習チューターによる学習指導や学習相談に対応します
- (8) 校内の授業研究を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」につなげる授業を実践します

3 グラデュエーション・ポリシー＝卒業までに「できるようになる力」

- (1) 自己を高め、自信につなげる力
自ら学び、考え、行動する自学自習の精神を学ぶ
- (2) 他者を理解し、課題解決に向けて協働できる力
アクティブラーニングやグループワークを通して一丸となって学ぶ
- (3) 未来を展望し、自らの世界を切り拓くことができる力
予習→授業→復習のサイクルで知識をしっかりと定着させる

中間的 目標と 方策	(1)学校経営		
	①組織		②施設・設備
	ア 教育職員	イ 行政職員	
	◆生徒の進路実現に向けた学習指導を展開し、良好なコミュニケーション、教員の協働、同僚性の高い組織環境のもと、一丸となって学校経営上の課題解決に取り組む。 自己研鑽に励むとともに、人材育成を目指した OJT 活動を推進する。ハラスメントや服務事故のない職場を維持する。 働き方改革を推進することにより、学校教育の質の維持向上を図る。	◆適正な予算編成と執行などの財務管理及び安全な教育環境の維持・管理を徹底するとともに、学校経営を支える企画提案に取り組む。また、ハラスメントや服務事故のない職場を維持する。 行政職員の学校運営への参画をより一層進める。 働き方改革を推進する。	◆施設・設備を安全に維持・管理するとともに、その充実・改善を図って教育効果の一層の向上を図る。 教職員の働く環境の改善を図る。
今年度の 取組目標 と方策	教育 目標と 方策	●中期的な視点に立脚した自律経営推進予算の編成と効率的な執行を行う。 ●学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラムに基づき、ライフワークバランスの実行を進めるため、計画的な仕事の進め方により業務の効率化を図る。 ●副校長と連携し、遅滞のない計画的な業務を進める。 ●教員と経営企画室との連携、意思疎通を進め、双方にとって効率的な業務改善を行う。	●施設・設備の安全確認、点検等を定期的に行う。改修や改善を要する施設・設備については、増改修要望を利用して学校経営支援センターや TEPRO と連携して教育環境の維持改善及び向上を図る。 ●複数年度にわたる中期的計画を作成する。 ●庶務事務システム、成績処理システム、コンディションレポートの円滑な運用を行う。
	重点 目標と 方策	■企画調整会議での議論の活性化による学校経営の一層の充実、改善を進める。 ■体罰や個人情報漏洩等の服務事故の防止に努め、服務事故をゼロにする。 ■全教職員が互いに人材育成に積極的に取り組み、互いの能力開発に努める。 ■若手教職員が主体的に自己研鑽に励み、自信を持って学校教育や学校運営に当たれるようになるために、主幹教諭、主任教諭、経験豊富な教諭は自己申告書に人材育成に関する目標を明記する。 ■若手教員の研修計画に基づき、各主幹教諭は専門分野の指導を計画的に実施する。 ■生成 AI を校務へ活用することにより、業務の効率化・見直しを図る。	■経営企画室職員は、経営企画室長の指導の下、職務に精通するとともに、学校運営に対し、積極的な提案を行う。 ■効果的な教育活動、安全な学校生活などについて、付加価値の高い業務を推進するため、優先順位を明確にして予算計画を立てる。効率的で有効な予算活用を心掛ける。適正かつ迅速な予算執行を行う。 ■経営企画室については、進行管理を適切に行うとともに、報告、連絡、相談を必ず行い、責任と意欲のある業務を遂行する。 ■学校説明会など広報活動に携わる。

中間的目標と方策		(2) 学習指導・進路指導	
		ア 学習指導	イ 進路指導
		◆広い視野と挑戦心の育成を図る。 ◆卒業までにできるようになる力を見通した学習指導を行う ◆学習や進路に関する教員の期待を表明し、指導を行う。 ◆生徒の深い学びと学力の定着を図る授業計画を作成する。 ◆アクティブラーニング型授業の実施を促進する。 ◆自学自習を支援する。 ◆「指名制の授業見学」を活用し、他校の優れた授業から学び、専門性を向上させる。	◆広い視野と挑戦心の育成を図る。 ◆将来の進路決定のために深い学びと幅広い教養を身に付けさせる指導を行う。 ◆進路、学年、教科等の連携を深め、組織的な進路指導体制を構築する。 ◆模試分析会、ケース会議を充実させ、結果を授業に反映させる。
今年度の取組目標と方策	教育目標と方策	●年間授業計画と指導のポイントの明確化を図る。 ●「生徒が主体的に活動する場面を取り入れた授業（主体的・対話的で深い学びを目指す授業）」を展開する。 ●年間3回のステータス・フィードバック・シート（生徒の自己評価）をエビデンスとして活用し、授業改善を図る。 ●観点別評価に対応した学習到達目標を明示し、生徒自身による自己評価を取り入れた指導を行う。 ●授業改善に関する研修会を計画的に行い、全員参加で授業力を高め合う。 ●教科会を一層充実させる。 ●授業研究、授業改善に関するデータベースを構築し、活用法に関する「クラス・ターゲット（校内研修）」を開催する。 ●図書館を計画的に利用し、生徒の主体的・対話的で深い学びに取り組むとともに、生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実させる。	●早い学年段階から進路意識を高める工夫を取り入れ、高い目標を持たせる。外部講師による生徒向け進路講演会を実施し、視野を広げる。また面談や出願校指導に活用する。 ●高大接続改革、大学入学共通テストの対策について適切に対応する。また、新傾向の問題を授業や定期考査に取り入れる。 ●リーダーシップ教育を軸とした主体性の涵養を図る。 ●キャリアパスポート、ポートフォリオを利用した振り返りによりキャリア意識を向上させる。 ●英語4技能習得のための実践的指導を行う。1年次に、TGGでの英語活用を体験させる。 ●レシテーションコンテスト等を実施する。
	重点目標と方策	■自宅学習に意欲的に取り組む生徒を育てるため、生徒が主体的に取り組むことが期待できる授業方法、予習・復習方法を全教員が考え、授業で実践する。 ■生徒に定期的、計画的に課題を出し、課題と授業の連動を高め、生徒の成功体験を積み重ねる。 ■教科間で指導計画に基づく課題の量と内容を調整し、生徒が学習の見通しを立てられるようにする。 ■学習時間記録票を使い、学習の自己管理を行わせる。朝学習を計画的に実施する。 ■個々の生徒が活用できる時間や学力に応じて、基礎固めや発展学習に主体的に取り組む。意欲のある生徒を育てるため、Web学習の効果的な活用方法を生徒に提供する。 ■ICTを積極的に活用した教材開発・指導法を研究する。 ■生成AI研究校として、校内における生成AIの効果的な活用法や指導法を研究・活用する。	■学習や進路に関する取組を計画的に配置し、生徒が積極的に活用するよう支援する。 ■模擬試験等の結果を活用して、生徒全体の学習理解度を分析し、授業に反映する。 ■模試分析会では、学年、教科によって同質な分析会が実践できるよう努め、多くの参加者で検討し合う。また、教科会での検討を行う。 ■ファインシステムやスタディサプリ等を個々の生徒の進路指導や二者・三者面談の際に活用する。 ■模擬テストは、学年集会等を利用して、各教科担当の解説を加える等、返却方法を工夫する。 ■「大学模擬授業」「キャリアガイダンス」等の行事を学校の取組として継続する。 ■進路希望に沿った、長期休業期間中の講習を行う。

中間的目標と方策		(3)生徒の健全育成と心身の健康		(4)特別活動		(5)地域貢献	(6)広報活動
		ア 健全育成	イ 心身の健康	ア 行事等	イ 部活動		
		◆公共心、道徳心を涵養し、規律・規範の育成や社会貢献の意識の醸成を図る。 ◆基本的生活習慣の確立、時間管理の意識向上を図る。 ◆授業、部活動、ホームルーム活動をおしてコミュニケーション能力を育成する。	◆心と体の健康を守り、安心して学校生活を送ることができる環境を維持する。相談、支援体制の一層の強化を図るとともに、生涯にわたる健康維持、増進に必要な基礎知識を身に付けさせる。 ◆特別支援教育や、合理的配慮への理解を深める。	◆学校行事を通して、情操を豊かにするとともに、健全な帰属意識を醸成する。また、ホームルーム活動等をおして、お互いに高め合う集団を育成する。 ◆18歳成人を見据え、早い学年から社会参加意識を高める。	◆部活動への積極的な参加を奨励する。心身の健康を増進し、文化教養を高める。地域に貢献する活動をおして、社会性の涵養を図る。 ◆事故等の未然防止と万一の場合の適切かつ迅速な対応を徹底する。		
今年度の取組目標と方策	教育目標と方策	●チャイム着席を励行し、授業に集中する環境や意識を向上させる。 ●身に付けるべき社会性を育成する。 ●時間の順守（遅刻防止）、身だしなみ、挨拶の励行を指導の重点とし、生徒部と学年が協力して効果的な指導を図る。 ●主権者教育と消費者教育の充実を図り、社会性を高校段階において十分に培う。	●生徒の心身に関連する委員会の効果的な開催により生徒の支援を行う。 ●食育リーダーを中心とした食育を推進する。 ●SC、特別支援教育コーディネーター等を活用した研修会を開催する。 ●いじめ、体罰を発生させず、生徒が安心して学校生活が送れる環境作りを行う。 ●心身の不調等、生徒の変化に機敏に気づき、学年や管理職と情報を共有して、早期対応に努める。	●生徒の一体感、自己肯定感、自尊感情を高めるための場作りを行う。 ●学校行事、生徒会活動、委員会活動、ホームルーム活動、外部ボランティアなどにおいて、生徒同士で互いの活動が見えるようにする ●文化、芸術に親しむ行事、防災活動に携わる行事、体育活動に親しむ行事、読書活動に親しむ行事、主権者意識を高める行事を実施する。	●部活動への参加を奨励し、文化活動や体育活動をおして、生涯に渡り健康で文化的な生活を送るための基礎を培う。 ●主体性のある生徒を育成するための指導スキルを身に付け、特別活動や授業で指導に生かす。 ●リーダーシップ教育とファシリテーションスキルを高める教員向け研修会を実施する。 ●部活動等では計画的なミーティングを実施する。	●地域行事への参加や地域との交流活動を推進し、積極的に社会参加、社会貢献しようとする態度を育成する。 ●講演会をボランティア活動、共生社会についての理解、グローバルな人材教育などにも活用する。	●行事や部活動等の教育活動の情報発信を実施する。 ●学校説明会では生徒に行事などの取組を紹介させる。 ●夏期学校見学会以外に、向陵祭に個別相談会を実施する。 ●本校の魅力を広報し、中学生の選択肢に本校を加えさせる。
	重点目標と方策	■携帯電話の活用に関する意識の向上を図る。特にSNSの適切な利用とゲーム等への依存防止の指導を、セーフティ教室等で繰り返し行う。 ■交通安全教室を通じて、交通ルール遵守の意識を高める。特に自転車事故防止に努める。 ■組織的な清掃と美化活動の指導を徹底する。	■教育相談委員会を毎月開催し、合理的配慮について教員全体で理解を深める。 ■特別支援教育に関して教員全員が理解するための研修会を実施する。 ■生徒間で互いを尊重する意識や共生の意識を育て、安心して安全な学校環境を維持する。 ■発達障害の理解、教員のカウンセリング能力の向上と相談体制の充実を図る。 ■外部機関との連携（都立精神保健福祉センター等）を図る。	■自立支援プログラムを活用した主権者教育を「人間と社会」で実施する。 ■修学旅行において平和学習を実施する。 ■生徒主体の活動を活性化させる。（学校説明会への参加、球技大会、外部コンクールへの応募等） ■統合型学習支援システムを活用した行事ごとの振り返りを行う。	■顧問教諭や関係教諭、SC等による面談等を実施し、部活動生徒をサポートする。 ■公式戦への参加の奨励や公的発表会等への参加支援を行う。 ■地域の学校や他校との部活動を通して、生徒同士の交流活動を展開させる。 ■部活動指導員の配置拡大を図る。	■地域や関係機関と連携した防災訓練を実施する。 ■地域に還元できる防災教育を行う。 ■近隣高校等と連携し、地域行事等へ参加する。	■学校ホームページ、X（旧ツイッター）、屋外掲示板を適切に管理し、更新する。 ■学校紹介映像を作成する。（都立高校PR事業） ■広報活動を全員で行い、教員自身が向丘高校についての真の理解者となる。 ■教員全員が本校の方針、特徴、具体的取組等について説明できるようになる。

数 値 目 標	(数値目標 1)		
	・ 共通テスト受験者数	92%以上	(昨年度 89.1%)
	・ 進路決定率	90%以上	(昨年度 92.5%)
	・ 国公立大合格者数	5人以上	(昨年度 2人)
	・ 早慶上理合格者数	5人以上	(昨年度 2人)
	・ GMARCH 合格者数	60 人以上	(昨年度 62人)
	・ 成成明國武獨	90 人以上	(昨年度 86 人)
	・ 日東駒専合格者数	150 人以上	(昨年度 172 人)
	・ 4工大	30 人以上	(昨年度 15 人)
	(数値目標 2)		
	・ 入選推薦応募倍率	3.50 以上	(昨年度 3.38)
	・ 入選一次(前期) 応募倍率	1.75 以上	(昨年度 2.02)
	・ 英語検定2級・準2級取得者	230 人以上	(昨年度 265 人)